

(様式2)【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：熊毛指導区 氏名：岡崎 博樹

1 発表テーマ

熊毛流域における枝物生産と森林整備の取組

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

熊毛流域においては、人工林資源は利用期にあるものの、植栽以降、長く保育の時期が続き、その間の地域社会情勢の変化や離島という地理的条件等から、現在、森林所有者の経営意欲は大きく減衰している。

しかしながら、場所によっては良好な生育のスギ人工林もあり、また、近年は国産材需要も一定水準に保たれていることから、島外への木材出荷は行われている。

ヒサカキ等の枝物生産については、地域の気候にも合うこと等から、近年、生産量が増加し、新たな生産者も生じている。

「持続可能な森林経営」を森林所有者等に推進していくため、地域の森林資源の活用事例や、森林整備に関する課題解決策への取組について整理し、今後の方向性を明確にする取組を展開した。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 現状

(1) 枝物生産

ヒサカキの生産を始めようとする者が増加している。

(2) 森林整備

ア 優良材の有利販売への取り組み

近年になり、スギの木材生産量の増加に加え、島内の製材工場2社のうち、1社が廃止したことから、優良材の有利販売に取り組む必要がある。

イ 利用期を迎えたスギ人工林

種子島のスギ人工林は、利用期を迎えているが、材価で経費をカバーできないとして、森林資源の循環利用が進まない状況にある。

② 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

(1) 枝物生産

熊毛地区枝物生産者養成講座の開催とヒサカキに特化した栽培暦を作成した。

(2) 森林整備

ア 優良材の有利販売への取り組み

令和3年度から5年度にかけて地域振興推進事業の「優良材の島外移送促進事業」を実施した。

当事業は、中間土場で一括検収し、船一隻分の原木確保を図り、優良材の島外移送を実施するというもので、当事業の実施により、安定供給体制の構築と有利販売先を確保することができた。

●KPI指標値：9,500円/m³ → 令和5年度実績：10,990円/m³

イ 利用期を迎えたスギ人工林

搬出間伐による木材生産とともに、主伐後の森林整備について検討等を行った。

(ア) 森林整備のあり方検討会

種子島の森林整備について、今後も「スギ人工林施業を継続」するのか、それとも「長伐期施業による広葉樹林への転換」を図るのか、管内の林業関係者が検討する場として開催した。

(イ) 主伐後の再造林の推進

今後、木材生産の一部が主伐に移行することは確実であるため、再造林の必要性や一貫作業による低コスト造林の意識を醸成する研修を実施した。

(ウ) 収益性の高い伐採・再造林の仕組みづくり

主伐や再造林の実績が少ない島内の林業事業体に対し、主伐・再造林一貫作業を実施する機会を提供するとして、地域振興推進事業の「種子島の森林資源循環利用モデル事業」を令和6年度から8年度にかけて実施することとした。

③ 課題

種子島では、労働力の不足が深刻化しており、種子島の森林整備を推進していく上での足枷となっている。

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

(1) 林業事業体間での協力態勢の構築

他の地域からの労働力の流入が困難であるため、島内の林業事業体が協力し、効率的に労働力を生かせる仕組みづくりを検討する。

(2) 潜在的な労働力の取り込み

島内には、自由な勤務形態を望んで、定職に就いていない方も多くおられるため、これらの方を取り組む仕組みづくりを検討する。

(3) 林業の認知度を高める

島内では、林業の認知度が低く、就職先の候補にすらなっていない状況があるため、一般の成人に向けた林業の周知活動に取り組む。

② 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

労働力の確保により林業事業体の体制が整備され、種子島の「持続可能な森林経営」が推進される。